

淡水カメ類 3種の解説 ニホンイシガメ・クサガメ・アカミミガメ

ニホンイシガメ (イシガメ科) 【環境省準絶滅危惧 新潟県準絶滅危惧 ワシントン条約付属書Ⅱ掲載種】



【特徴】メスは甲長20cmほど、オスは15cmほどに成長。背面は茶色～黄色味を帯びた茶色で、中央に1本の隆起があり、甲羅の後端はギザギザしている。腹面は黒く、頭部はクサガメに比べて小さめである。

【分布】日本固有種で、本州・四国・九州に分布。県内では、平野部よりも里山を流れる川で見つかる事があるが数はごく少なく、生息実態は不明。

【備考】生息環境の悪化、販売目的の乱獲、外来捕食動物の影響などにより、全国的に生息数が激減している。越後側には天然分布がないとの記載もあるが、大正14年(1925)発行の『新潟縣天産誌』には、淡水性カメ類は本種とスッポンのみが記載されている。



頭は小さめで、首にはクサガメのような黄色い模様はない



背面は褐色～黄褐色、後はギザギザ



腹面は黒、オスの尾は太い



幼体の尾は甲とほぼ同長

クサガメ (イシガメ科)

古い時代の移入種: 朝鮮半島・中国大陸原産



【特徴】メスは大型で甲長25cmほどに成長する。背甲には3本の稜線、首には黄色いミミズ模様がある。成熟したオスは全身が黒化し、イシガメと誤認されることがある。さわると臭いを発するため、「くさがめ」の名がついた。

【分布】本州・四国・九州に分布。県内では、平野部の池沼や下流部の河川、農業用水路などに普通に生息する。

【備考】在来と考えられていたが、最近のDNA検査で朝鮮半島や中国大陸からの移入種であることが明らかになった。『新潟縣天産誌』に記載がないことから、県内には昭和期になってから持ち込まれたものと考えられる。現在ペットとして流通するのはほとんどが中国産。在来のニホンイシガメへの遺伝子汚染(交雑)が問題となっているが、現時点では法規制がない。



成熟したオス: 全身黒化して首の線も見えない。 腹甲がくぼみ尾が太い。



メスの腹甲: 黄色い仕切り線



幼体: 背甲の3本の稜線が明瞭

ミシシippアカミミガメ (ヌマガメ科) 【緊急対策外来種】【世界の侵略的外来種ワースト100】 北アメリカ南東部原産



【特徴】メスは大型で甲長28cmほどに達する。オスは小型で尾が太く、爪が長く伸び、黒化するものがある。背面に隆起線はなく、目の後ろの赤褐色の斑紋が特徴的。幼体は緑色で「ミドリガメ」と呼ばれるが、成長すると黒みを帯びる。

【備考】ペットとして大量に輸入されたものが放されて増殖し、日本国内の淡水ガメの中で最も多数を占めるようになった。新潟県内でも、都市部を中心に急増中。成長すると攻撃的になり、水生植物を食害したり、様々な水生小動物を捕食し、在来のカメ類と競合する。環境省は「アカミミガメ対策推進プロジェクト」を始動、野外からの排除に向けて段階的な対策を進めている。



大型のメス



オスは尾が太く、爪が長い



黒化したオス「メラノイド」



幼体「ミドリガメ」